

序論)

みなさんは、いざという時に頼りにするものはなんでしょうか？ 少し調べてみた所、現代人がいざというときに頼りにするものは大きく二種類あるそうです。その二種類とは、人か、人じゃないものかです。

詳しくいうと「いざという時に頼りになる人」というのは、家族、親族、友人、恋人、先生や上司、カウンセラーといった信頼できる人物、もしくは専門的な知識を持っているプロなどです。

「いざというときに頼りになる人以外のもの」というのは、お金、保険、身につけた技術、知識、物資、家、車などでした。

それ以外にも信仰、宗教といったものも、現代人が頼りにしているものとして出てきましたが、順番的には家族や親族よりも下で、現代人は神様よりも、信頼できる人間関係や、物資などを頼りにしている傾向が強いようです。

なぜ、こんな事をいうかということ、今日の箇所はこの世の偶像よりも、【主】のみが救いを与える神であることを強調している箇所だからです。

みことばの背景)

今日の箇所は、バビロン捕囚を経験することになるイスラエルに対して、【主】がご自分こそが救いの神であることを、念を押して語っている箇所となっています。

そもそもバビロン捕囚は、【主】に逆らっていたイスラエルがその報いとして経験しなければいけないものであり、イスラエルの人たちがそのことをわかっていたのならば、いままで行っていた偶像礼拝を悔い改めて、バビロンにある偶像など目を向けるはずがないのですが、どうも彼らはバビロンの捕虜となった後も【主】に逆らい、偶像礼拝を続けていたようです。

そこで神様は、バビロンの偶像の無力さと【主】がどのようなお方かを改めて語っておられます。

1) バビロンの神はお荷物になる

まずは 1-2 節を読んでみましょう。

46:1 「ベルはひざまずき、ネゴはかがむ。彼らの像は獣と家畜に載せられる。あなたがたの荷物は、疲れた動物の重荷となって運ばれる。

46:2 彼らはともにかがみ、ひざまずく。重荷を解くこともできず、自分自身も捕ら

われの身となって行く。

1 節にでてくる「ベル」とはバビロンの主神マルドゥークのことでこのように（図1）人間に羽が生えたような神です。カナンでいうところのバアルですね。そして、ネボというのは、そのベルの息子のことで、ベルからのメッセージを伝える役をもっていました。当時の戦争はそれぞれの国が信じている神同士の戦いという意味があり、偶像を作っている国はそれぞれの神の像を戦場に持ち運んでいました。

神様は、バビロンが信じていた神が戦争に負けて、バビロンを助けることができないただの荷物として家畜が運ぶ荷台に載せられ、ただの重荷となって敵に捕らわれると言われていました。

どんなに強い国に信じられていた神であっても偶像はただのお荷物にしかならないし、人々を助けることができない重荷なのです。

2) 【主】は民を運ぶ救いの神

対してイスラエルをずっと導いてこられた【主】はどうでしょうか。3-4 節を読みましょう。

46:3 ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。

46:4 あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。

【主】はイスラエルを「胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運んだ」と言われています。また、そのように小さい時だけでなく、【主】はイスラエルを「白髪になっても・・・背負う」と言われています。

つまり【主】はご自分の民に重荷を与える神ではなく、生まれる前から支え守り、白髪になり力を失った後も、イスラエルを愛し救う神だ。と自己紹介をされているのです。

みなさん、ここに偶像とまことの神様の違いがあります。偶像の神は人の重荷となる神であり、まことの神様は私達が何の力も無いときから守りささえてくださり、年老いて力を失った後も変わらずに支え救い続けてくださるお方なのです。

実際、この世の偶像は私達に重荷を敷いてきます。先日、ネットである新興宗教

についての相談が記事になっていました。それによると在る人が、父親が母を殴るといった家庭内暴力などの悩みをもっており、そこにとある新興宗教が接触して、お金をいっぱい寄付し、この宗教をいっぱい布教したら問題が解決すると言ってきたそうです。そこでその人は家族の問題の解決を願って数千万円もの寄付をし、一生懸命布教したそうです。それでも全然問題が解決しなかったため、そのことをその宗教の指導者に相談したところ、もっと寄付をし、もっと布教したら問題が解決するといわれたそうです。これは一例にすぎませんが、このように偶像は助けるふりをしながら重荷を課してきます。

でも、【主】は違うのです。【主】は私達が生まれる前から私達を愛し支えてくださり、私達のことを背負って救いに導いてくださるのです。事実、私達が救われたのは、三位一体の神である御子イエス・キリストに私達の罪を背負っていただいたからです。第一ペテロ 2 章 24 節にはこのように書かれています。

1 ペテロ 2:24

キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

みなさん、偶像はお荷物であり、重荷です。しかし、まことの神である【主】は私達を背負って救ってくださる神様なのです。

3) 【主】と偶像を同じような存在だと思ふな

だから、私達を救ってくださる本当の神様と偶像を同列に扱うことは愚かなことなのです。5-7 節を読みましょう。

46:5 わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。

46:6 袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拝む。

46:7 彼らはこれを肩に担いで運び、それがあつたところに安置すると、それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。

みなさん、既にイザヤ書で何度も見てきたことですが、偶像はどのように作られますか？ お金を持っている人たちが偶像作成のための費用を出して、そのお金で金細工人を雇って、人がそれを作っているのです。そして、多くの人はその自分たち

が作ったものをありがたがって拝み、自分たちが決めた場所に設置するけど、結局その偶像は、動くことも、自分で自分を守ることもできません。だから、日本の多くの仏像は、いたずらされないように金網で囲われて守られています。自分で自分を守ることができないわけですから、当然、偶像は人を救うこともできません。

【主】はイスラエルを最初から最後まで守り、救われますが、偶像は全くの無力です。それにもかかわらず、多く的人是はまことの神様と偶像を同列の存在かのように扱っています。これはあってはならないことなのです。

バビロンにつれていかれた人々は、偶像の文化に囲まれながら、いつのまにか【主】とバビロンの偶像を同列のように扱ってしまっていたのかもしれませんが。

みなさんは、【主】と無力なこの世の物を同列に扱ったりしていないでしょうか。

【主】は偶像のような無力な神ではなく、みなさんのことを、現実的に、実際的に、運び、導き、救ってくださることを信じて日々歩んでおられるのでしょうか。

4) 【主】の民よ。しっかり立て

【主】はご自分の民に対して言われています。8節、9節

46:8 このことを思い出し、勇み立て。背く者たちよ、心に思い返せ。

46:9 遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。わたしのよ
うな神はいない。

(8節表示) 8節「このこと」とは偶像が無力であり、【主】が生まれる前からイスラエルを支え、助け続けてこられた。ということです。

事実、イスラエルは、最初にイスラエルと名付けられたヤコブが生まれる前から、彼の父祖であるアブラハムを選びだし、支え導いておられました。そして、イスラエル民族になった後も、エジプトから救い出し、カナンとの戦いに勝利を与え、絶えず守り、支え続けておられたのです。だからこそ、【主】は既に与えられ続けてきた【主】からの恵みを思い出して、しっかり立ちなさいと命じられています。8節の「勇み立て」と訳されている部分は、直訳すると「男らしさを示しなさい」という命令です。第三版の聖書だと「しっかりせよ」となっています。

みなさん、みなさんがイメージする男らしい人、しっかりした人とはどのような人でしょうか。自分でしっかりと準備をし、一つ一つの問題をしっかりと乗り越えて

いく人、それが、私達がイメージするしっかりした人です。しかし、神様にとって男らしい人、しっかりしている人というのは、そのような人ではなく、私達を最初から最後まで守り支え、救い出してくださるまことの神様のことをちゃんと理解し、このお方をちゃんと信じて、従って歩む人のことなのです。

みなさんは、この神様から目を話さないしっかりした人になっているのでしょうか。

5) 事をなすのは【主】である

なぜ、私達はまことの神様、【主】なる神様をしっかりと信じ続けていかなければいけないのでしょうか。それは結局、すべての物事を計画し、実行されるのは唯一の神、【主】なる神様だからです。

イスラエルがキュロス王によって解放されるというのも、神様のご計画の成就でした。だから、【主】は10節、11節のように言われています。

46:10 わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

46:11 わたしは東から猛禽を、遠い地から、わたしの計画を行う者を呼ぶ。わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する。

わかりますか？ 私達人間は、自分の思う通りに自分の人生の計画を建て、自分の力で人生を切り開いていると思っ込んでいます。でも違うのです。すべての物事をあらかじめ計画し、それを成就させているのは、聖書の神様であり、【主】なる神様なのです。そして、キリストによって私達を救うための計画を建て、それを成就されたのも【主】です。

だから、私達は偶像文化の中や、自分の力やこの世の力によって生きを求める社会の中にいたとしても、【主】を信じ続け、【主】に従い続けることが大切なのです。

6) 【主】の救いは近い

だから、最後に【主】は改めて招きのことばをいわれています。12節、13節

46:12 わたしに聞け、頑なな者たちよ。正義から遠く離れている者たちよ。

46:13 わたしは、わたしの義を近づける。それは遠くはない。わたしの救いが遅れることはない。わたしはシオンに救いを、イスラエルにわたしの栄えを与える。」

私は「正義から遠く離れている者たち」に対して「わたしの義を近づける」といってくださっている神様のことばに、神様の大きな愛を感じます。イエス様も宣教を開始されたときにいわれました。

マタイ 3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

と、みなさん、【主】は、【主】に背いた私達のところに【主】の救いを持ってきてくださるお方です。これは【主】の愛以外の何者でもありません。

だから、私達はこの【主】を信じ、【主】から差し伸べられた救い、【主】から差し伸べられた義を素直に受け取って従うのがよいのです。

結論)

みなさん、偶像は私達にとって重荷にしかありません。そして、現代の偶像はいわゆる仏像とか、神棚とか、そういったものだけではなく、いざというときに私達が頼ってしまう人であったり、お金であったり、物質かもしれませぬ。大切なのはそれらにより頼むのではなくって、生まれる前から私たちを運び、救い出してくださる【主】を信じて、従うことです。

みなさん、誰かに運ばれたことがありますか？ おんぶでも、抱っこでもいいです。誰かに運んでもらうとき、その手の中で暴れてしまったらどうなりますか？ せっかく助けてくれる人の邪魔をすることになります。誰かに運ばれるためには、その人にみを委ね。その人にしっかり捕まる事が大切です。

【主】に対してもおんなじです。偶像は私達を助けてくれませんが、【主】は私達を運び出し、助けてくれます。だから、私達はこのお方を信じて、まずはこのお方が連れて行くままに身を委ねましょう。そして、このお方にしっかりと捕まって、このお方に従っていきましょう。

それが、このお方に救われる神の民の歩み方です。【主】にとってしっかりものとは、自分のちからで足掻く人ではなく、【主】を信じて身を委ねる人のことなのです。

みなさんは、誰に頼り、何に身を委ねているのでしょうか。みなさんを最初から最後まで助け導き、救ってくださる【主】にすべてを委ねて歩いていきましょう。